

教育・研究等業績一覽

履 歴						
フリガナ		ショウナイ	ケイイチ	性別	生年	
氏名	庄内		慶一	男		
所属	農学ビジネス学科			身分	准教授	
学 歴						
年 月	事 項					
1998 年 3 月	明星大学 理工学部 電気工学科 卒業 工学士					
1998 年 4 月	明星大学大学院 理工学研究科 電気工学専攻 修士課程 入学					
2000 年 3 月	明星大学大学院 理工学研究科 電気工学専攻 修士課程 修了 工学修士					
職 歴						
年 月	事 項					
2000 年 4 月	株式会社藤田製作所 検査グループ (2001 年 3 月まで)					
2001 年 4 月	株式会社藤田製作所 システム開発グループ (2002 年 3 月退職)					
2002 年 6 月	株式会社千葉精密 第一開発部モータ課 (2002 年 10 月退職)					
2003 年 3 月	神奈川県立横須賀高等職業技術校 衣笠分校 電子機器制御コース 臨時的任用職員 (2004 年 3 月退職)					
2004 年 3 月	ユニオン光学株式会社 製造部 システム課 (2007 年 3 月退職)					
2007 年 4 月	拓殖大学北海道短期大学 経営経済科 助教					
2012 年 4 月	拓殖大学北海道短期大学 経営経済科 准教授					
2013 年 4 月	拓殖大学北海道短期大学 保育科 准教授					
2014 年 4 月	拓殖大学北海道短期大学 農学ビジネス学科 准教授 現在に至る					
教 育 業 績						
1 担当授業科目 (2017 年度)						
科 目 名		出講場所	期別	曜日	時限	備 考
キャリアスキル		PC 演習室	前期	月	2	
1 年ゼミナール		PC 演習室	前期	木	4	
情報科学		201 教室	前期	水	3	
情報技術の基礎Ⅰ (A クラス)		パソコン室	前期	金	3	
情報技術の基礎Ⅰ (B クラス)		パソコン室	前期	金	4	
2 年ゼミナール		PC 演習室	前期	木	3	
情報技術の運用Ⅰ (A クラス)		パソコン室	前期	水	1	
情報技術の運用Ⅰ (B クラス)		パソコン室	前期	月	5	
卒論演習			前期			
キャリアスキル		302 教室	後期	月	1	
1 年ゼミナール		PC 演習室	後期	木	4	
地域プロジェクト			後期	木	5	
地域特別演習			後期	木	5	
情報技術の基礎Ⅱ (A クラス)		パソコン室	後期	水	1	
情報技術の基礎Ⅱ (B クラス)		パソコン室	後期	水	4	
2 年ゼミナール		PC 演習室	後期	木	3	
情報技術の運用Ⅱ (A クラス)		パソコン室	後期	金	2	
情報技術の運用Ⅱ (B クラス)		パソコン室	後期	金	4	
卒論演習			後期			

2 現行授業の目標と教育効果及びそれに対する自己評価 (記述式：900字以内)	1. 現行授業の目標と教育効果 1) 情報関連科目 (情報科学, 情報技術の基礎Ⅰ・Ⅱ, 情報技術の運用Ⅰ・Ⅱ) 地域振興ビジネスコースの情報関連科目は、職業生活や社会生活に必要な情報リテラシー、高度情報社会に求められる情報処理能力と関連知識の習得を目的に構成している。1年次の講義科目「情報科学」は、情報科学の基礎知識を文系初学者にも理解できるよう概説する。演習科目の「情報技術の基礎Ⅰ」は基礎的なコンピュータの知識と利用技術を、「情報技術の基礎Ⅱ」はコンピュータが扱う代表的なデータ構造とデータの蓄積法、データベース言語 SQL について理解することを目的とする。2年次は「情報技術の運用Ⅰ・Ⅱ」を通じ基本情報技術者の試験範囲で基礎理論とコンピュータシステム、技術要素と開発技術に関する基礎的な知識と技能を習得する。 2) ゼミナール関連科目 (1年ゼミナール, 2年ゼミナール, 地域プロジェクト, 地域特別演習) 1年ゼミナールは地域振興ビジネスコースの必修科目である。大学での学業のための基礎的な知識と技能を習得することを目標としている。履修を含めた学業の指導、研修旅行の取組み、レポート作成、進路指導、後期レポートの取組みを主な授業内容としている。効果は、自己の学業生活を自己管理すること、設定された課題について論理的に説明すること、自己の進路目標を立案することができるようになることである。 2年ゼミナールは、地域振興ビジネスコース2年次の必修科目である。遠隔コミュニケーションに関する研究を通じ、情報共有方法の改善を提案する。効果は、ネットワークと情報システムに関する基礎知識を習得できることが挙げられる。 地域関連科目は地域活性化の方策の理解を目的としている。「地域プロジェクト」は地域住民の情報活用能力向上を目的に、「地域特別演習」は演劇による障害者支援を目的に、それぞれ一定の成果を得ている。 2. 自己評価 全ての科目でeラーニングシステムを活用しており、授業時間内外で個別指導を積極的におこなっている。受講生は、授業時間外でも自宅などからeラーニングシステムを用いて予習や復習を進めることができた。																
3 学生による授業評価も踏まえ、教育改善への取り組み (記述式：900字以内)	eラーニングシステムにより学生は教員から新たな課題を提示されても、不安なく積極的に取り組むことができたと考えられる。効果としては、担当した全ての科目において、基礎的な知識を習得でき、目的と意図が理解されたと評価している。 情報関連科目は1・2年次ともに、情報技術の基礎的な操作や知識の習得および、その応用ができるようになることを念頭において授業を展開した。目標への到達度合いは、成績の総合評価において平均が昨年同様であった。 受講生の要望から授業で改善してほしい点として、もう少しゆっくり進めてほしいという意見と、授業速度が少し遅いという対立した意見がある。改善に向けて、授業の進度は従来通りに維持する。演習科目の性質上、課題が完成するという一定の成果を得るために必要である。他方、情報技術の基礎的な知識と技能を習得するため、常に受講生の理解度を踏まえ指導に当たる。理解度を踏まえるうえで、理解度と到達目標の関係は、明確でなければならない。教師と受講生とで認識を共有しているが、到達目標とその特徴を明確にする。また、本科目は演習科目であり、学習方法の一つとして受講生同士が教えあい、基本的な操作方法や知識を習得していく過程は今後も重視したい。私語が多いため座席指定してほしいという要望に対しては、授業に関係ないことをしないという原則のもとに、座席に配慮する。																
4 教科書、教材の作成状況 (記述式：300字以内)	(1) コンテンツ自動作成システムを活用した入学準備教育用マルチメディア・コンテンツの作成 (2) 入学準備教育の学習方法を解説するマルチメディア・コンテンツの作成 (3) 情報技術の基礎科目の演習教材 (A4で89ページ) (4) 情報技術の運用科目の演習教材 (A4で141ページ) (5) データベース論科目の演習教材 (A4で34ページ) (6) システム設計科目の演習教材 (A4で20ページ) (7) 障害者の演劇の支援者用eラーニング教材																
5 学生の指導 (課外活動・厚生補導等) (主要10件以内)	<table border="1"> <tr> <td>2007年4月～2008年3月</td> <td>全国大学実務教育協会「IT活用能力テスト」の実施</td> </tr> <tr> <td>2007年5月～現在</td> <td>中央職業能力開発協会「コンピュータサービス技能評価試験」の実施</td> </tr> <tr> <td>2008年6月～現在</td> <td>ICTプロフィシエンシー検定協会「P検」の実施</td> </tr> <tr> <td>2009年10月～2014年3月</td> <td>入学準備教育プロジェクトによる入学予定者の指導</td> </tr> <tr> <td>2014年4月～現在</td> <td>女子バスケット部顧問</td> </tr> <tr> <td>2015年11月～現在</td> <td>障害者の演劇「夢公演」の支援学生スタッフの教育</td> </tr> <tr> <td>2015年12月～2016年11月</td> <td>聴覚障害者の人形劇デフ・パペットシアターひとみ公演の実施</td> </tr> <tr> <td>2017年4月～同年12月</td> <td>資格取得公開講座のステューデント・アシスタント教育</td> </tr> </table>	2007年4月～2008年3月	全国大学実務教育協会「IT活用能力テスト」の実施	2007年5月～現在	中央職業能力開発協会「コンピュータサービス技能評価試験」の実施	2008年6月～現在	ICTプロフィシエンシー検定協会「P検」の実施	2009年10月～2014年3月	入学準備教育プロジェクトによる入学予定者の指導	2014年4月～現在	女子バスケット部顧問	2015年11月～現在	障害者の演劇「夢公演」の支援学生スタッフの教育	2015年12月～2016年11月	聴覚障害者の人形劇デフ・パペットシアターひとみ公演の実施	2017年4月～同年12月	資格取得公開講座のステューデント・アシスタント教育
2007年4月～2008年3月	全国大学実務教育協会「IT活用能力テスト」の実施																
2007年5月～現在	中央職業能力開発協会「コンピュータサービス技能評価試験」の実施																
2008年6月～現在	ICTプロフィシエンシー検定協会「P検」の実施																
2009年10月～2014年3月	入学準備教育プロジェクトによる入学予定者の指導																
2014年4月～現在	女子バスケット部顧問																
2015年11月～現在	障害者の演劇「夢公演」の支援学生スタッフの教育																
2015年12月～2016年11月	聴覚障害者の人形劇デフ・パペットシアターひとみ公演の実施																
2017年4月～同年12月	資格取得公開講座のステューデント・アシスタント教育																
6 その他 (主要5件以内)	<table border="1"> <tr> <td>2007年7月</td> <td>シスコ・ネットワーキングアカデミートレーニングにより CCNA1 のライセンス取得</td> </tr> <tr> <td>2007年8月</td> <td>シスコ・ネットワーキングアカデミートレーニングにより CCNA2 のライセンス取得</td> </tr> <tr> <td>2007年8月</td> <td>シスコ・ネットワーキングアカデミーカンファレンス研修参加</td> </tr> <tr> <td>2007年12月</td> <td>シスコ・ネットワーキングアカデミートレーニングにより CCNA3 のライセンス取得</td> </tr> <tr> <td>2008年2月</td> <td>シスコ・ネットワーキングアカデミートレーニングにより CCNA4 研修参加</td> </tr> </table>	2007年7月	シスコ・ネットワーキングアカデミートレーニングにより CCNA1 のライセンス取得	2007年8月	シスコ・ネットワーキングアカデミートレーニングにより CCNA2 のライセンス取得	2007年8月	シスコ・ネットワーキングアカデミーカンファレンス研修参加	2007年12月	シスコ・ネットワーキングアカデミートレーニングにより CCNA3 のライセンス取得	2008年2月	シスコ・ネットワーキングアカデミートレーニングにより CCNA4 研修参加						
2007年7月	シスコ・ネットワーキングアカデミートレーニングにより CCNA1 のライセンス取得																
2007年8月	シスコ・ネットワーキングアカデミートレーニングにより CCNA2 のライセンス取得																
2007年8月	シスコ・ネットワーキングアカデミーカンファレンス研修参加																
2007年12月	シスコ・ネットワーキングアカデミートレーニングにより CCNA3 のライセンス取得																
2008年2月	シスコ・ネットワーキングアカデミートレーニングにより CCNA4 研修参加																

研 究 業 績				
1 研究分野・活動 (記述式：350字以内)	障害を理由とする差別の解消を推進するため、2016年4月には、障害者差別解消法の合理的配慮規定等が施行された。障害者の社会参加が促進される中、参加者の間でやり取りされているすべての情報を共有して、その場に積極的に参加できるようにする情報保障が取り組まれている。情報保障の提供方法は、通訳を受ける障害当事者の障害の状態に合わせ提供される。通訳方法によっては時間不足ですべての情報を共有できないことがある。特に点字通訳は点字の規則に従った点字の作成と触読に時間を要する。本研究の目的は、情報保障のもとに障害当事者に不足する情報を補完することである。不足する情報は情報量として客観的側面と主観的側面を考察する。			
2 研究課題 (今後の展開・可能性を含む) (記述式：350字以内)	本研究課題は、点字使用者のための遠隔コミュニケーション方法を確保することである。意思疎通支援の方法は、情報利用環境のある場合とない場合とを対象にする。情報利用環境のある場合は、電子的に制御されたピンを点字として呈示する点字ディスプレイを利用可能にする。インターネットに接続することにより、時間と空間に制約が少なく情報にアクセスできる。点字使用者の情報活用能力を向上するために、パソコンおよび点字ディスプレイの使用方法を点字使用者に指導する。情報利用環境の無い場合は、点字紙による遠隔コミュニケーション方法を確保する。点字学習による意思疎通支援を実施し、点字紙による情報保障の提供方法の改善を確認する。障害当事者の独習と比べ点字触読の時間を短縮し、障害当事者の負荷の解消に期待できる。			
3 研究助成等 (主要5件程度)	(1) 文部科学省科学研究費 (2) 学内 (3) 学外 ・平成22年度拓殖大学人文科学研究所個人研究助成 研究期間：平成22年4月1日から平成23年3月31日 研究課題名：学習効果向上のためのコンテンツ自動作成システムの評価 －拓殖大学北海道短期大学におけるe-learningシステムを活用した入学準備教育－ ・平成29年度拓殖大学人文科学研究所個人研究助成 研究期間：平成29年4月1日から平成30年3月31日 研究課題名：障害者の演劇による地域振興教育－稽古に対する遠隔教育環境の構築－			
4 資格・特許等 (主要3件以内)	高等学校教諭専修免許 (工業) 職業訓練指導員免許 (電気科) 職業訓練指導員免許 (電子科) 職業訓練指導員免許 (電気通信科)			
著書、学術論文、作品等の名称 (主要15件以内)	単著、 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行又は発表 雑誌等又は発表 学会等の名称	要 約
[学位論文]				
剣道競技に於ける電子計測の応用に関する研究	単著	2000年3月	明星大学大学院 理工学研究科 修士論文	剣道の試合や段級審査における審判員の判定条件は、間合い・打突部位・竹刀の打突部・氣勢・姿勢・刀筋・残心・打撃力・打突の冴えなどがある。これらは審判員の視覚情報のみならず、聴覚に伝わる打撃音によっても判断されることが考えられる。現在、打撃成果は審判員の主観によって判定されており、不公平や地域格差が問題となっている。ここでは、公正な判定の一助とするため、電子計測の応用を試みた。その結果、剣道競技者の熟練度による差が認められ、さらに練習曲線を統計的に求め、報告した。
[学術論文]				
打撃スピードの変化に伴う竹刀の動きと打撃音・打撃圧	共著	2000年3月	明星大学 研究紀要	打撃時の衝撃力を示す打撃圧と打撃音の関係は強い相関をもっている。さらに、打撃音の過渡状態において「冴えた打撃音」を分離可能であり、剣道技能の優劣や上達度を測ることが可能となっている。ここでは、竹刀の操作テクニックの違いが打撃音発生に与える影響を検討した。小手打撃の動作に「打ち型」「突き型」の変化をもたせ、竹刀の操作テクニックと打撃音の特徴を捉え、報告した。

視覚障がい者のためのペン入力触覚ガイドを用いた二次元配列位置情報の入力手法の改良と評価	共著	2011 年 1 月	電子情報通信学会論文誌	本論文は、二次元配列の位置情報を利用した、視覚障がい者のための入力インタフェースを提案する。この入力インタフェースは、ペンタブレット上に9×9個のポジションホールが配置されたペン入力触覚ガイドと、音像定位による音響フィードバックから構成される。入力図形は、点、線分、及びその組合せであり、それらは二次元配列で作成可能なものである。まず、いくつかのアプローチを用いて、ペン入力触覚ガイドの性能の改良を検討した。その結果、改良されたペン入力触覚ガイドを用いた実験により、簡易図形を正確に短時間で入力できることが示された。現在、本インタフェース・システムを用いた視覚障がい者用オセロゲームへの応用を検討している。視覚障がい者のための図形教育への応用は今後の課題である。
拓殖大学北海道短期大学におけるe-learning システムを活用した入学準備教育 —入学準備教育の実施と今後の課題—	共著	2011 年 3 月	拓殖大学人文科学研究所紀要	拓殖大学北海道短期大学では、2003年度のAO入試の開始と同時に入学準備教育を導入した。また、経営経済科では2010年1月から2010年3月までの3ヶ月間、学習習慣の維持には、学習管理と双方向性が必要であると考え、e-learning システムを活用して実施した。実施結果より、現在大学が置かれている環境から、入学準備教育の必要性を確認した。 第2章では、拓殖大学北海道短期大学経営経済科において2009年度にe-learning システムを活用して実施した入学準備教育の概要と学習状況について述べた。続く第3章では受講後に受講生を対象に行った入学準備教育の評価に関するアンケート調査の結果を述べ、第4章では実施結果に関して考察した。第5章では今後の課題と改善方法を検討した。
Effects and Evaluation of a Pre-School Education Program Using an E-learning System	共著	2011 年 8 月	International Journal of Computer Science and Information Security	At universities, new students' scholastic achievements have become more varied because of the university's increased entrance ratio. Each university must now work to improve new students' scholastic achievements. This study aims to develop a system to ensure new students' scholastic achievements. We implemented the pre-school education program using an e-learning system in the three months before entering a university and investigated the program's effects. The targets include the participating and non-participating new students. The investigation data are students' attendance and question responses after entering college. Results of attendance and question response data showed that participating new students maintained study habits after entering school.
入学準備教育における学術的学習サイクルの適用 —e-learning システムによる学習プロセスの意識調査とその結果—	共著	2011 年 10 月	拓殖大学人文科学研究所紀要	本研究の目的は遠隔地の留学生を対象に学習内容を日本語聴解に限定してe-learning システムによる入学準備教育を実施し、その教育方法や学術的学習サイクルの適用の有効性を確認することである。本稿においては、教材利用回数など実施状況のデータ、アンケートによる意識調査や年度別の日本語能力試験合格率をもとに検討した。 その結果、学習前から学習後にかけて「日本語を聞く」ことに対する意欲は維持され自信は肯定的に変化し、本教育に対する達成感や満足感を得ていることが確認された。更に、日本語能力試験合格率は本教育を受けたグループの方が受けなかった過去のグループより高いという傾向が示された。
[学会]				
剣道の練習過程における上達の分析	共著	1999 年 3 月	日本武道学会 第32回大会	打撃圧の分析によって、熟練度での分析が可能であることが確かめられたことから、実際の試合ではなく、教育目的として利用するのであれば、技能差の判定は打撃音によっても可能ではないかと考えた。 剣道競技の練習過程において、打撃時に発生する打撃音を分析し、打突技術の上達の様子を打撃音の変化から評価できることを報告した。

「小手」打撃スピードの変化に伴う打撃音・打撃圧・打撃動作の関係	共著	1999年3月	日本武道学会 第32回大会	剣道の打撃時に発生する打撃音は、打撃成果を評価するための大切な聴覚情報である。今回は、特に試合場面における小手打ちの判定が難しいことの要因を検討した。小手打ちは、打撃部が小さく竹刀先端の動きが小さいため、視覚情報や聴覚情報からの判定の難易性が考えられる。そこで、被験者の小手打撃スピードを意図的に変化させ、その変化に伴う打撃音、打撃圧、打撃動作について分析した。小手打撃成果の特徴と共に、小手打ち判定を難しくする要因について報告した。
触覚と聴覚を利用した視覚障がい者用図形入力インタフェースにおける入力支援	共著	2008年12月	電子情報通信学会技術研究報告	In this paper, We had study on input support of figure input interface using tactile and auditory senses for the visually impaired. In order to make formal figure, we prepared an acrylic pen input tactile sense guide. This guide has 9 by 9 lattice of holes which correspond to 9 by 9 localized sound feedback. We had conduct experiments by 3 types of input method which the Discrete input method and the Linear input method and then the Start and End point input method. Experiments show that the subjects can input figure quickly and correctly.
短期大学の入学予定者を対象とした入学準備教育における e-learning システムの活用	共著	2010年7月	日本教育工学会研究報告集	学生生活の理解や基礎学力の向上のため、短期大学では入学予定者に対する入学準備教育の実施を求められている。この要求に対して、2010年1月から3月の3ヶ月間、e-learning システムを活用し、社会科学系短期大学の日本人学生と留学生の入学予定者を対象とした入学準備教育を実施した。本研究では、この学習状況と実施結果を報告した。
入学準備教育に活用できるコンテンツ自動作成システムの評価	共著	2010年9月	社団法人私立大学情報教育協会	入学準備教育のための e ラーニング教材として、マルチメディア・コンテンツを開発した。語彙力、文章の読み方、講義ノートを取り方と留学生向け日本語会話能力の四つを準備した。受講者から高い評価が得られたものの、出題方法の改善など課題も明らかになった。
短期大学におけるマルチメディア・コンテンツを活用した e-learning システムによる入学準備教育の教育効果	共著	2011年5月	日本教育工学会研究報告集	マルチメディア・コンテンツを活用した e-learning システムによる入学準備教育を、短期大学の社会科学系学科で実施した。その結果、マルチメディア・コンテンツを活用して教材や課題の出題方法を工夫したことにより、受講生の学習への取り組みが改善された。また、入学準備教育の受講生が入学後に受講する情報教育科目で学習習慣を維持する教育効果を確認した。
日本語聴解力養成のための e-learning システムによる入学準備教育 -中国在住の中国人留学生を対象に-	共著	2011年8月	跨文化交际中的日语教育研究	日本語の聴解力不足は拓殖大学北海道短期大学の留学生にも散見されるため、学習習慣の確立と聴解能力の向上を目的とする入学準備教育を2010年より留学開始3カ月前の留学生を対象に実施している。 2011年における本教育実施後のアンケート結果によると、「聞く」「話す」共に自信に対する評価が向上して改善傾向が認められた。また、自由記述による評価も概ね肯定的であり、本教育の修了時には学習習慣の形成がなされていたと考える。 さらに、入学後に実施した試験結果によると、本教育の取り組みの程度と入学後の聴解力の向上の程度は一定の関係があり、入学後の取り組みにも影響を与えていることが確認された。
マルチメディア・コンテンツを活用した入学準備教育における出題方法の改善効果と情報教育科目の評価	共著	2011年9月	社団法人私立大学情報教育協会	入学前教育の受講生が入学後の「情報教育」科目において、学習習慣を維持していることを確認した。マルチメディア・コンテンツを活用して出題方法を改善したことにより、受講生は入学後の「情報教育」において昨年度の受講生と比べて学習習慣が高くなっていることが確認できた。

視覚障害者のための音の移動感を用いた線形図形の生成による図形教育への応用	共著	2013 年 10 月	電子情報通信学会技術研究報告	本研究は、線形図形を視覚障害児自ら生成することにより、図形の点対称や回転の概念などの基礎的な性質を学習するための図形教育システムを検討した。扱う図形は最大 6 本の線で構成される簡単なものである。線分およびその組合せからなる簡単な図形は、仮想音響スクリーン上の音の移動感によって表現できる。この手法と入力触覚ガイドを併用し、視覚障害児が図形の基礎的な性質を学習するための図形教育システムを構築した。このシステムにより、擬似視覚障害者を被験者として、簡単な線形図形を正確に入出力できるインタフェース性能を確認する実験を行った。実験の結果、意図した図形を正確に入出力でき、図形教育への可能性を確認した。		
視覚聴覚二重障害のある大学進学希望者のための e ラーニングによる入学準備教育の検討	共著	2015 年 9 月	社団法人私立大学情報教育協会	本研究の目的は、視覚聴覚二重障害のある大学進学希望者が不足する学力や能力を補うために、特別支援学校高等部と大学との連携による入学準備教育システムを構築することである。本稿は、e ラーニングによる入学準備教育の必要性を把握することを目的として、特別支援学校の教員を対象とした意識調査により検討した。意識調査の結果、肯定的な意見が得られ、e ラーニングの利用が期待され、教育を支援するアシスタントも加わり補いあうとよいことがわかった。		
社会科学系学生がサポートする地域住民のための情報活用力向上プロジェクト	単著	2017 年 9 月	社団法人私立大学情報教育協会	本研究の目的は、学生の情報活用能力を向上するサービス・ラーニング環境の構築である。地域住民の課題解決に必要な情報活用能力の向上を学生がサポートする。情報活用能力はここでは基礎的・実務的なアプリケーション操作能力とする。その能力向上と評価を可能にするため、公開講座を開講する。公開講座は大学を会場に、e ラーニング・システムで対面授業を補強する。学生アシスタントは担当教員とともに受講環境の構築と運営を担う。公開講座の時間内外で受講生をサポートする。講座の扱う内容が復習となり、学生アシスタント自身の知識として定着できる。今後は本講座を実施し、情報教育の改善を確認する。		
その他						
Effects and Evaluation of a Pre-School Education Program Using an E-learning System（抄録）	共著	2011 年 10 月	拓殖大学人文科学研究so紀要	This report on our research results to date was made possible by a grant-in-aid for individual research, in fiscal year 2010, from the Institute for Research in the Humanities at Takushoku University. It was published in “Effects and Evaluation of a Pre-School Education Program Using an E-learning System” in the International Journal of Computer Science and Information Security (2011; Vol. 9, No. 8, pp. 32–38).		
研究業績（過去 3 カ年分）				国際的活動の有無	社会的活動の有無	
著作数	論文数	学会等発表数	その他			
0	0	2	0	有	有	
学 内 運 営 業 績						
1 役職、各種委員会等 （主要 10 件程度）	2007 年 4 月～2008 年 3 月		教務委員会			
	2012 年 4 月～2013 年 3 月		教務委員会			
	2007 年 4 月～2016 年 3 月		ネットワーク管理運営委員会			
	2016 年 4 月～現在		情報ネットワーク運営委員会			
	2008 年 4 月～2012 年 3 月		入試広報委員会			
	2014 年 4 月～現在		入試広報委員会			
	2013 年 4 月～2014 年 3 月		就職委員会			
	2007 年 10 月		オープンカレッジ コンピューター基礎操作 講師			
	2008 年 10 月		ふれあいカレッジ コンピューター入門 講師			
	2009 年 10 月		ふれあいカレッジ コンピューター講座 講師			
	2017 年 11 月		平成 29 年度空知管内高等学校情報教育研究会 講師			
	2017 年 10 月～同年 12 月		パソコン資格取得公開講座 講師			

学 外 活 動 業 績		
1 本学以外の機関（公的機関・民間団体等）を通しての活動 （主要 10 件程度）	2007 年 5 月～現在	中央職業能力開発協会コンピュータサービス技能評価試験北海道試験委員
	2008 年 6 月～現在	ICT プロフィシエンシー検定協会 P 検公認試験官
	2009 年 9 月～現在	深川市立高等看護学院入学試験委員
	2014 年 4 月～現在	ふかがわ地域資源活用会議監事
	2016 年 2 月	第 5 回深川市民公開講座「もし目や耳が不自由になったら」講師
	2016 年 4 月～現在	旭川市盲ろう者通訳・介助員
	2016 年 4 月～現在	障害者の演劇「夢公演」副実行委員長
	2017 年 4 月～現在	札幌市障がい者パソコンボランティア
2 学会・学術団体等の活動 （主要 10 件程度）	2007 年 2 月～現在	電子情報通信学会 正会員
	2009 年 2 月～現在	拓殖大学理工学総合研究所 所員
	2010 年 4 月～現在	拓殖大学人文科学研究所 所員
	2014 年 9 月～現在	情報処理学会 正会員